

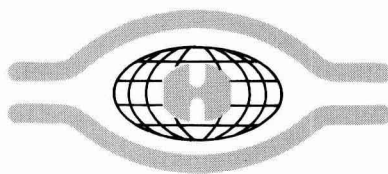
HEIBON
SHA'S
WORLD
ENCYCLO
PEDIA

世界 大百科 事典

1

ア—アン

平凡社



世界大百科事典 1

1981年4月20日 初版発行
1982年印刷
全36巻揃現金定価 145,000円

編集兼発行人 下中邦彦
発行所 平凡社
郵便番号102
東京都千代田区三番町5
振替東京8-29639番
電話03(265)0451番

本文用紙 十条製紙株式会社
グラビア用紙 山陽国策パルプ株式会社
多色オフ 見返用紙 日清紡績株式会社

本文写植製版 フォト印刷株式会社
本文印刷 株式会社東京印書館
グラビア製版印刷 株式会社東京印書館
多色オフ 株式会社光村原色版印刷所

クロース ダイニック株式会社
表紙箔押 斎藤商会
製本 和田製本工業株式会社

《1981年版 世界大百科事典》の刊行にあたって

1955年から60年にかけて、小社はその総力をあげて《世界大百科事典》全32巻を完成し、その後、1964～68年には追補・訂正を含めた新版全26巻を、さらに1972年には情報化時代とも呼ばれた70年代を迎えて改訂新版全35巻を刊行しました。

《世界大百科事典》の編集方針は、(1)自国中心・大国中心の記述を排する世界的な視野に立ち、とくにアジアについては欧米の事典の追従をゆるさぬ内容を盛った、(2)科学の最高水準の成果を普及するとともに、その研究の人類文化に対する意味を問うた、(3)政治・経済・社会等については事実の正確さを重んじるとともに、その現代的意義を究明した、(4)信仰・主義・主張等にかかわる事象は実態を客観的に叙述することに努め、黙殺・誇張・歪曲を排した、(5)知識をいきいきと把握するため、知識の総合と相関を重んじ、大項目を中心に、中・小項目を配置して知識の重層世界を形成した、(6)解説は平易、正確を旨とし、いたずらに卑俗に墮することのないようにした、(7)視覚に訴える力を重視し、図版と本文を有機的に関連させ立体的理解を得られるようにした、の7点です。この方針はとりもなおさず、人類の達成した学問と文化のあらゆる成果を、国民全体の共有財産として提供したいという抱負に基づくものでした。

幸いにして、その意図は、5,000人におよぶ各界の専門の諸先生のご協力を得て、林達夫編集長以下の努力によりほぼ達成することができました。こうして《世界大百科事典》は、日本を代表する唯一の本格的な百科事典として、今日まで読者諸賢の多大のご支持を得てきました。

一方、世界情勢はもとより、近年における政治・経済・社会等の動きはめまぐるしく、また科学・技術の進歩、学問・芸術さらには生活様式にいたるまで、日々新たなならざるものはないというのが現実です。1980年代におけるわたしたちの使命は、このような世界の動向や文化の様態が日本と日本人にとっていかなる意味をもつかをあらためて問うことにあります。

《1981年版 世界大百科事典》全36巻は、以上の視点に立って過去の事象とその評価を再点検しました。すなわち、第1～第32巻の全項目にわたってデータの更新を含む改訂をおこない、あわせて第34巻〈現代〉を新設し約2,400項目を収録しました。この第34巻は第1～第32巻の下欄に設けた「〔補〕」を受けて増補巻の役割を果たすとともに、以下に述べる豊富な内容によって1970年代を知るための最新の事典としても使用できるよう編集されたものです。項目の選定、追補・改訂の内容については、とくに、国会、政党、地方自治、法律、裁判などの政治・法律分野、物価、消費者問題、財政、産業、流通などの経済分野、労働、教育、医療、福祉、婦人問題、土地・住宅問題など日常生活に密接な社会分野、資源、エネルギー、環境、公害など人類と地球の将来にかかわる分野、国際情勢、各国現況、外交、軍事など世界の動向、さらに、生物学、原子力、宇宙、電子工学、地震など日進月歩の科学・技術の分野に焦点をあてて編集しました。また、16テーマのカラー別刷図版をはじめ、図版、付表を数多く収録しました。

なお、第33巻末尾の〈便覧〉をさらに充実させ、新たに1980年10月の国勢調査に基づく全国都道府県・市町村別人口などを加え、また、世界地図・日本地図を収載する別巻〈地図〉も、今回、より美しい色調に改め、地名についても1980年現在の行政区画に基づいて改訂しました。

《1981年版 世界大百科事典》全36巻は、ここに名実ともに最高、最大、最新の百科事典としての内容を実現し、従来にもまして、引きやすく、読みやすく、親しみやすいものになったと自負しております。元版発刊以来、この最新版にいたるまで、編集顧問、編集委員、執筆者の諸先生には厚いご協力を賜りました。《1981年版 世界大百科事典》の完成は、ひとえにこれらの諸先生のご尽力と、読者諸賢のご支援の賜物であることをここに銘記し、深く御礼申しあげる次第です。

1981年4月

平凡社社長 下 中 邦 彦

編集顧問

東 竜太郎
安 倍 能 成
石 原 謙
上 野 直 昭
上 原 専 禄
内 田 俊 一
梅 原 末 治
大 内 兵 衛
大 山 松 次 郎
岡 田 要
茅 誠 司
河 竹 繁 俊
木 原 均
新 村 出
鈴 木 大 拙
高 田 保 馬
谷 川 徹 三
辻 村 太 郎
恒 藤 恭
東 畑 精 一
中 山 伊 知 郎
長 谷 川 如 是 閑
久 松 潜 一
福 原 麟 太 郎
松 方 三 郎
宮 沢 俊 義
矢 代 幸 雄
湯 川 秀 樹
蠟 山 政 道
我 妻 栄

編集委員

経 済 青 山 秀 夫
鉱 山 青 山 秀 三 郎
舞 踊 蘆 原 英 了
スポーツ 東 竜太郎
西洋美術 新 規 矩 男
経 済 有 沢 広 巳
映 画 飯 島 正
マスコミ 池 島 信 平
産 業 稻 葉 秀 三
西洋史 井 上 幸 治

数 学 弥 永 昌 吉
考古学 江 上 波 夫
経 済 大 内 力
民 俗 大 藤 時 彦
キリスト教 大 畠 清
工 学 大 山 松 次 郎
動 物 岡 田 要
民 族 岡 正 雄
解 剖 小 川 鼎 三
植 物 小 倉 謙
電気工学 尾 佐 竹 徇
教 育 海 後 宗 臣
東洋史 貝 塚 茂 樹
哲 学 金 子 武 蔵
日本史 川 崎 庸 之
地 理 木 内 信 蔵
音 楽 岸 辺 成 雄
医 学 北 本 治
キリスト教 北 森 嘉 蔵
日本音楽 吉 川 英 史
化 学 木 村 健 二 郎
哲 学 久 野 収
薬理学 熊 谷 洋
文 学 桑 原 武 夫
物理学 小 谷 正 雄
カトリック 小 林 珍 雄
家 庭 今 和 次 郎
ドイツ文学 相 良 守 峯
心理学 相 良 守 次
気象学 正 野 重 方
フランス文学 杉 捷 夫
音 楽 園 部 三 郎
日本美術 田 中 一 松
建 築 谷 口 吉 郎
マスコミ 千 葉 雄 次 郎
政 治 辻 清 明
地 理 辻 村 太 郎
経 済 都 留 重 人
演 劇 戸 板 康 二
文 学 中 島 健 蔵
イギリス文学 中 野 好 夫
インド哲学 中 村 元
日本文学 中 村 光 夫
東洋史 仁 井 田 陞

日本史 西 岡 虎 之 助
アメリカ文学 西 川 正 身
動 物 沼 野 井 春 雄
地 理 能 登 志 雄
農 学 野 口 弥 吉
哲 学 野 田 又 夫
言 語 服 部 四 郎
軍 事 林 三 郎
西洋風俗 春 山 行 夫
日本文学 久 松 潜 一
美 術 土 方 定 一
社 会 日 高 六 郎
イギリス文学 平 井 正 穂
建 築 平 山 嵩
土 木 福 田 武 雄
天 文 藤 田 良 雄
仏 教 古 田 紹 欽
音 楽 堀 内 敬 三
応用化学 牧 島 象 二
治 金 三 島 徳 七
考古学 水 野 清 一
地 理 三 野 与 吉
心理学 宮 城 音 弥
法 律 宮 沢 俊 義
教 育 宮 原 誠 一
西洋史 村 川 堅 太 郎
建 築 村 田 治 郎
地 理 矢 沢 大 二
応用物理 山 内 二 郎
船 舶 山 県 昌 夫
演 劇 山 田 肇
西洋美術 吉 川 逸 治
中国文学 吉 川 幸 次 郎
機 械 吉 沢 武 男
日本文学 吉 田 精 一
東洋美術 米 沢 嘉 圃
政 治 蠟 山 政 道
法 律 我 妻 栄
経 済 脇 村 義 太 郎
地 質 渡 辺 武 男
編 集 長 林 達 夫
装 本 田 中 一 光

● 見出しのつけ方 ●

《表音見出し》

1. 日本読みのものは〈現代かなづかい〉による〈ひらがな〉書きとし、促音・拗音は小字とした。ただし、お列長音は〈う〉、〈ち・づ〉は〈じ・ず〉とした。
2. 外国読みのものは、外来語を含めて〈カタカナ〉書きとし、長音は〈音びき〉(一)を用いた。略語は、とくに原語読みの普及しているもののほかは英語読みに従った。
3. 中国・朝鮮などの人名・地名は、慣用の漢字読みで出したが、現地読みに近い慣用読みのあるものはそれによった。
4. 日本語と外来語との合成語は、日本語の部分は〈ひらがな〉、その他は〈カタカナ〉とした。

《本見出し》

1. 日本読みのものは、〈漢字〉と〈ひらがな〉を用いた。〈ひらがな〉書きのもので、表音見出しとまったく一致するものは省略した。
2. 外国読みの項目には、原則として原語(あるいは語原を示す語)を入れた。ただし、ギリシア語、ロシア語その他、特殊な文字のものはローマ字におきかえて入れた。
3. 日本読みと外国読みとの合成したものは、〈漢字〉〈ひらがな〉〈カタカナ〉をあわせ用いた。

《項目配列の方法》

1. 表音見出しの五十音順とし、促音・拗音も音順にかぞえ、清音、濁音、半濁音の順序とした。
2. 〈音びき〉(一)のあるものは〈音びき〉のないものの後にした。
3. 同音のものは、おおよそつぎのような順序で配列した。
 - a. 表音見出しの〈カタカナ〉→〈ひらがな〉。
 - b. 本見出しのないもの→〈カタカナ〉のもの→〈ひらがな〉のもの→漢字のもの。
 - c. 本見出しが漢字のものは、第1字目の画数の少ないものを先にし、第1字目が同字のものは順次第2字以降の画数による。
 - d. 同音同字のものでは、普通名詞→固有名詞。
 - e. 外国人名では、ファミリー・ネーム(同一の場合はパーソナル・ネーム)のアルファベット順。
 - f. 日本地名では、自然地名→行政地名→その他の地名。

● 文体と用語・用字 ●

1. 漢字まじり〈ひらがな〉口語文とし、かなづかいはおおむね〈現代かなづかい〉に従い、漢字は原則として当用漢字を用いた。ただし、原典の引用、固有名詞、歴史的用語その他は例外として扱い、必要に応じて()内に読みがなをつけた。
2. 動・植物名、元素名、化合物名、鉱物名で当用漢字のないもの、日本神名および〈カタカナ〉を慣用としている特殊の語は〈カタカナ〉書きとした。
3. 年代は、原則として西洋紀年を用い、必要に応じて日本・中国その他の暦年をつけた。
4. 度量衡は、原則としてメートル法を用いたが、慣用に従って尺貫法、ヤード・ポンド法を用いた場合もある。

● 外国語について ●

1. 欧文の地名・人名については、可能なかぎり現地読みに近いものをとったが、慣用の読み方に従って例外としたものも少なくない。
2. ギリシア語、ロシア語のローマ字へのおきかえはつぎのようにした。
 - a. ギリシア語
η=e ω=o χ=k χ=ch
 - b. ロシア語
а=a б=b в=v г=g д=d
е=e ё=yo ж=zh з=z и=i
й=i к=k л=l м=m н=n
о=o п=p р=r с=s т=t
у=u ф=f х=kh ц=ts ч=ch
ш=sh щ=shch ъ=' ы=y
ь=' э=e ю=yu я=ya
3. 上記のほか、欧文の地名・人名の〈カタカナ〉による表記は、おおむねつぎの基準に従った。

berg[スウェーデン]〈ベリー〉 Strind-berg ストリンドベリー
cu[スペイン]〈クァ・キ・クェ・クォ〉 Ecuador エクアドル
d[独]語末では〈ト〉 Wieland ヴィーランド
de[仏]〈ド〉 de Gaulle ド・ゴール
dou[仏]〈ドゥー〉 Doumer ドゥーメル
du[英・仏]〈デュ〉 Durand デューランド; Dumas デュマ
du[独]〈ドゥ〉 Durst ドゥルスト
er[英・独]語末では〈アー〉 Parker パーカー; Herder ヘルダー
g[独]語末では〈ク〉, ngは〈ング〉, igは〈イヒ〉 Hamburg ハンブルク; Lessing レッシング; König ケーニヒ
gn[仏・伊・スペイン]〈ニャ・ニュ・ニエ・ニョ〉 Auvergne オーヴェルニュ; Bologna ボローニャ

gu[伊・スペイン]〈グァ・グィ・グェ・グォ〉 Paraguai パラグアイ
ia[一般]語末では〈イア〉 Asia アジア
io[伊]〈ヨ〉(拗音) Boccaccio ボッカッチョ; Giorgione ジョルジョーネ
j[スペイン]〈ハ行音〉 Juárez フアレス
je[一般]〈イェ〉 Jena イェーナ
ley[英]〈リー〉 Huxley ハクスリー
ll[スペイン]〈リャ・リョ〉, 南アメリカでは〈ヤ・ヨ〉 Castilla カスティリャ; Trujillo トルヒョ
oi, oy[仏]〈オワ〉 Boileau ボワロー
pf[独]〈プ〉 Pfizner プィッツナー
ph[ギリシア]〈フ〉 Aristophanes アリストファネス
qu[伊・ラテン]〈クァ・キ・クェ・クォ〉 Quirinius クィリニウス
ray[英]〈レー〉 Thackeray サッカレー
son[英]〈ソン〉 Edison エディソン
sp, st[独]語頭では〈シュプ・シュト〉 Spranger シュプラングー; Storm シュトルム
stew, stu[英]〈スチュ〉 Stewart スチュアート; Stuart スチュアート
swi[英]〈スウィ〉 Swift スウィフト
thi, ti[一般]〈ティ〉 Thiers ティエール; Tiziano ティツィアーノ
thu, tu[独・ラテン]〈トゥ〉 Tumlirz トゥムリルツ; Tacitus タキトゥス
thü, tü[独]〈チュ〉 Thurnau チュルナウ
tou[仏]〈トゥー〉 Toulon トゥーロン
tu[英・仏]〈チュ〉 Tunisia チュニジア
v[ラテン]〈ウ〉 Vergilius ウェルギリウス
v[スペイン]〈バ行音〉 Verasquez ベラスケス
w[独]〈ヴ〉 Wagner ヴァーグナー
x[一般]〈クス〉 Xenophon クセノフオン
y[ギリシア]〈ユ〉(拗音) Dionysos デイオニッソス
zi[独]〈チ〉 Leipzig ライプチヒ; ただし語頭では〈ツィ〉 Zimmermann ツィンマーマン
zi[伊]〈ツィ〉 Venezia ヴェネツィア
zü[独]〈チュ〉 Zürich チューリヒ

● 符号・記号 ●

《かこみと送り》

- 【 】 中見出し語をかこむ。
〔 〕 〈本見出し〉に出る動・植物の漢字および本文中の小見出し語をかこむ。
《 》 書名または題名をかこむ。

- < > 引用文または語句，とくに注意を
 うながす語，書名または題名以外
 の編または章などの表題をかこむ。
 () 注の類，または読みがなをかこむ。
 [] 日本地名の国・県・区・市・町・
 村をかこむ。
 ⇨ 該当項目への送り
 ↳ 参照項目への送り

《漢字略語》

国名・地名の略語を用いる場合は，つぎ
 の13種にかぎって使用する。

アメリカ(米)；イギリス(英)；イタリ
 ア(伊)；インド(印)；オーストラリア
 (豪)；オランダ(蘭)；ソヴェト(ソ)；
 中国(中)；ドイツ(独)；日本(日)；フ
 ランス(仏)；モンゴル(蒙)；ヨーロッ
 パ(欧)

ただし，戦争，会議，協定など特定の場
 合にかぎって

アジア(亜)；アフリカ(阿)；オースト
 リア(奥)；トルコ(土)；プロイセン
 (普)；ロシア(露)

などの略語も用いる。

《科学記号または略符号》

a	アール
A	アンペア
Å	オングストローム (=10 ⁻⁷ mm)
A. D.	紀元後
atm	気圧
AufI.	版
[α] _D ²⁰	比旋光度(20℃における ナトリウムD線に対し)
B.	湾
bar	バール
B. C.	紀元前
Bé	ボーメ度
BTU	英熱量
c	サイクル
C.	岬
℃	摂氏温度
ca.	年数の大約を示す。
cal	カロリー
Cal	大カロリー
cgs	絶対単位
cm	センチメートル(cm ² 平方 センチ，cm ³ 立方センチ)
const	定数
d	デシ(=1/10)
d ¹⁵	比重(15℃における)
d-	右旋
D.	砂漠
dB	デシベル
deg	度(温度)
dyn, dyne	ダイン
E	東経
emu	電磁単位
eV	電子ボルト

F	ファラッド
°F	華氏温度
ft	フィート(ft ² 平方フィー ト，ft ³ 立方フィート)
g	グラム
G	ギガ(=10 ⁹)
G.	湾
gwt	グラム重
h	時
ha	ヘクタール
HP	馬力
Hz	ヘルツ
in	インチ(in ² 平方インチ， in ³ 立方インチ)
I.	島
Is.	諸島(列島)
IU	国際単位
k	キロ(=10 ³)
K	絶対温度
kc	キロサイクル
kcal	キロカロリー
kg	キログラム
km	キロメートル(km ² 平方キ ロ)
kV	キロボルト
kW	キロワット
kWh	キロワット時
l	リットル
l-	左旋
L.	湖
lb	ポンド
lm	ルーメン
l. t	ロング・トン
lx	ルクス
m	メートルまたは分
m-	メタ
M	メガ(=10 ⁶)
Mc	メガサイクル
mb	ミリバール
mg	ミリグラム
mks	mks単位
mm	ミリメートル

mmHg	水銀柱の高さ(mm)
mol	モル
Mt.	山
Mts.	山脈，山地
mμ	ミリミクロン(=10 ⁻⁹ m)
μ	ミクロまたはマイクロ (=10 ⁻⁶)
μ	ミクロンまたはミュー (=10 ⁻⁶ m)
μμ	ミクロミクロンまたはミ ューミュー(=10 ⁻¹² m)， ただしmμをμμとも記す。
n	ナノ(=10 ⁻⁹)
n _D ¹⁵	屈折率(15℃におけるナ トリウムD線に対し)
N	規定，または北緯
Nr.	号，または番
o-	オルト
oz	オンス
p	ピコ(=10 ⁻¹²)
p-	パラ
P.	半島
pH	水素イオン濃度指数
ppm	ピーピーエム(=10 ⁻⁶)
PS	メートル馬力
R.	川
rpm(h)(s)	1分(時)(秒)間回転数
S	南緯
S.	海
sまたはsec	秒
s. t	ショート・トン
St.	海峡
t	トン
V	ボルト
W	ワット，または西経
Ω	オーム
/	生没年などの年数の両説 を示す。
%	パーセント
‰	パーミル
♂	雄
♀	雌

《地図記号》

記 号	各 国 地 図	分 県 地 図
	国境	県境
	省・州・県境	
	鉄道	国鉄
	特殊軌道	私鉄
	運河	特殊軌道
	主要道路	国道
	パイプライン	鉄道連絡線航路
	首都	都道府県庁所在地
	主都(省・州・県)	市
	大都市	
	中都市	町
	小都市・町，その他	村・字，その他
	山頂	山頂
	峠	峠

注 その他慣用化している記号は適宜使用した

別刷図版目次

愛知	13～16
アイヌ	33～36
青森	69～72
赤絵	81～82
阿寒国立公園	99～100
秋田	109～110
アサガオ	143～144
アジャンター	177～180
飛鳥美術	189～190
安土桃山時代美術	199～202
阿蘇国立公園	219～220
アフリカ	301～306
アメリカ・インディアン	371～372
アメリカ合衆国	389～392
アメリカ美術	425～428
アール・ヌーヴォー	501～502
アルプス	511～514
アンコール	547～548
アンデス	565～568
安藤広重	585～588

ア

あい 愛 ある人にとって価値ありとされた対象によって、彼がひきつけられるときにおこる精神的過程を愛とよぶ。しかしその場合、愛の対象が客観的に価値あるものである必要はない。むしろ愛は対象の価値をたかめるものといえる。したがってそれは悟性的認識ではなく、非合理的創造といえる。愛の対象は自分の向う側に立つ人間とは限らず価値が発生しさえすれば愛はそこにあるのだから、自己への愛もあり、事物への愛もある。このように対象によって愛は〈自己愛〉〈没我愛〉〈精神愛〉〈心情愛〉あるいは〈エロス愛〉〈性愛〉などに分類できる。〈自己愛〉は自分の価値をたかめたい欲望から発するもので、この欲望が中断するとき、その変形として愛の対立者である憎しみがうまれる。〈没我愛〉はひたすら対象の価値高揚のところさすもので、これを真の愛とよぶ人もある。〈精神愛〉は神への愛、真理への愛、人類愛、祖国愛、友情、親子の愛などがこれにあたりに、〈没我愛〉とともに利己心とは根本的に対立する。理想的に言えば、ここでは愛の体験に情緒性と肉体的性はいってこない。〈心情愛〉あるいは〈エロス愛〉はふつうには男女間に成立し、期待、あこがれ、熱情などの心情的体験を通して我と汝(な)とが近づきあう。この愛の底には〈性愛〉がある。それゆえ恋愛における心情的方面を重視する人は、恋愛を人間的とし、性愛的感官の方面に着目する人は、それを動物的と考えるのである。しかし純粋な〈性愛〉には心情的体験はなく、生物学的事象としてあつかわれる。なお、〈精神愛〉〈心情愛〉〈性愛〉の系列を下のほうからさかめ、性的エネルギー(リビドー)の作用が根本になってすべての愛が営まれると考える学者もある(たとえばフロイト)。(島崎 敏樹)

これらの愛をつうじて特徴的な点をいくつかあげれば、つぎのとおりである。すなわち愛はその喜びが対象をそれ自身のために価値ありとする点で、対象が主観の衝動や要求、関心をみたすゆえに感じられる快と区別される。したがって愛は対象の個性を尊重し、相手の人格の尊厳を確保する。また愛はさまざまな情緒や衝動を変形させ包摂する動因として、共通普遍の善をめざす精神生活の究極的な徳とみなされる。さらに愛は本能的力として個人や種属の生命保存という至上の目的に結びついて形成規定された根ふかい努力的傾向であり、同時に愛は知にとっても本質的であり、知は愛であるとか最上の理由は愛の理由、つまり同情共感的な透察からうまれた理由であるなどといわれている。

愛について論じた思想家は数多いが、そのなかでプラトンの説く愛erosは善きものの永久的所有へ向かい、肉体的にも心霊的にも美しい者の中に生殖し生産することをめざすものとされた。滅ぶべき

者の本性はあたうかぎり無窮不死を願うが、それはただ生殖によって古い者のかわりに常に他の新しいものを残してゆくことによってのみ可能である。この愛を一つの美しい肉体からあらゆる肉体の美へ、心霊上の美へ、職業活動や制度の美へ、学問的認識上の美への愛に昇華させ、ついに美そのものであるイデアの国の認識にいたることが愛の奥義である。プラトニック・ラヴは本来はこのような善美な真実在としてのイデアの世界への無限なあこがれと追求、真理認識への哲学的衝動のことである。アリストテレスの説く愛philesisは相互応酬的でかつ相手方に知られている好意、しかも各自にとっての善や快という有用性のゆえにではなくて、善き人々である限りにおける相手方にとっての善を互いに願望すること、したがってそれは徳を有することにおいて類同的な、互いに自らに即して善き人々の間の親愛である。かかる究極的な愛はまれでもあり、時間を要し呢懇(じこん)を重ねることが必要だという。スピノザによるとすべてのものは自己保存の努力conatusをもち、人間は心身をより大なる完全性へ移すこと、すなわち喜びを欲望し悲しみをさけ、喜びを与える外物を愛し、悲しみを与える外物を憎む。これは欲望、喜び、悲しみという三つの根本感情から幾何学的にさまざまな愛と憎しみを分析する。ところでわれわれの精神が事物を永遠の相のもとに、すなわち必然的連関において認識することは、精神をより完全にすることから喜びであり、この十全な認識は事物を神(=自然=実体)の様態として認識することであるから、その喜びは外部の原因としての神の観念を伴ない、神への愛である。それは神の認識と一つになっているから神の知的愛amor dei intellectualisである。カントは傾向性(好ききらいなど)にもとづく感性的な愛と理性的意志にもとづく実践的な愛とを区別し、後者のみが道徳的とした。傾向性としての愛を命ずるわけにはゆかないから、隣人への愛とは隣人に対するすべての義務をすんで遂行することである。そして道徳的法則への尊敬がそれへの愛に変わるのが道徳的心術の最高の完成であろうとした。マルクス主義では人々が協同して自然と戦い衣食住の生活手段をますますゆたかに生産する労働の生産力の発展と、これによる物質的ならびに文化的精神的な生活の向上、豊富化、それにもとづく人間のあらゆる可能性と潜勢力の自由な発展を愛し、そのための生産闘争と社会闘争における働く人々の同志愛を強調する。また人間による人間の労働の搾取、つまり人間的なものの非人間化を最も憎み、愛の憎しみに重点をおいている。(藤野 渉)

キリスト教においては、愛はこの宗教が救いの宗教、愛の宗教といわれるほどに、中心的地位を占めている。キリスト

教という愛とは、限りなく善である神を万事にこえて愛し、また神のために他人をもおのれのごとく愛する超自然的徳である。この意味での愛は、要するに人間の意志を神の意志に一致させる努力のことである。したがって神を愛するとは、神の啓示したおきてを守り、罪をさけ、万事にこえて神の意志を第一に重んずることをいうのである。キリスト教を救いの宗教というのも、罪からの救いを達成させる宗教という意味であるが、罪ということも要するに、愛に反することをさすものにほかならない。すなわち愛すべきものを愛せず、愛してはならぬものを愛し、多く愛すべきものを少ししか愛せず、少ししか愛してはならぬものを大いに愛するときに、罪がうまれるのである。まことの愛をたたえて聖パウロもいっている。〈われたとえ人間と天使との言語を語るとも、愛なければ鳴る鐘、ひびくシンバルのごとくなるのみ。われたとえ予言することをして一切の奥義一切の学科を知り、またたとえ山を移すほどなる一切の信仰を有すとも、愛なければ何物にもあらず、われたとえわが財産をことごとく分け与え、またわが身を焼かるるために渡すとも、愛なければいさかもわれに益あることなし〉(コリント前書13の1以下)。神を愛するがゆえに、また隣人をもおのれのごとく愛し、汝の敵をも愛さなければならぬ。キリストのおきてはこの二つの愛に要約されている。それゆえキリスト教は愛の宗教とよばれる。隣人愛においても、その人の救いを祈り助けることが主で、いわゆる慈善は従である。→プラトニック・ラヴ→慈悲(小林 珍雄)

あい [藍] *Polygonum tinctorium*

青色の染料を得るために古来栽培されたタデの一種。無毛の一年草で茎は高さ70cm内外、よく分枝し赤紫をおびる。葉は狭卵形で短い柄があり、基部には筒形で長い縁毛のある托葉がある。花は小形紅色で5個の花被片からなり、夏季に茎頂付近に穂状に集まって咲く。葉に青色の色素インジゴを含む。中国あるいはインドシナの前産で、いろいろの品種があるが、春種をまき、7、8月ころ開花前に刈り取って刻み、アイ玉の原料とする。ヤマアイもインジゴを含むので、日本ではいっそう古く青色染料として用いられた。その他インジゴをとる植物にはキアイ、タイセイ(大青)、セイヨウタイセイなどがある。(大井 次三郎)

アイ(タデアイ)は、天然染料の原料として、江戸時代に阿波・摂津を中心としてきかんに栽培された。とくに阿波のアイ作は藩主の奨励をうけて発達し、1800年ころにはアイ玉の産額15万~20万俵におよび、数量ならびに品質において、独占的地位を確立した。そのほか、筑後・備前・伊予・薩摩・長門などにもアイ作がおこなわれた。明治以後全国的なアイ

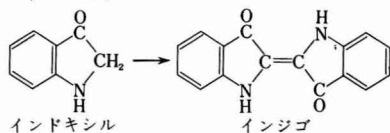




アイアイ

作面積は、1878年(明治11)の26,139町歩(1町歩=0.991ha)から1897年(明治30)の50,712町歩にまで漸増したが、すでに明治初年からおこなわれた輸入アイの圧迫をこうむって、以後ようやく漸減し、とくに1904年(明治37)以降ドイツからの人造アイの輸入が急増するにおよんで、顕著に減退していった。(棋西 光速)

あい 藍 天然染料の一つ。最も古くから世界中で大量に用いられた植物系染料。アイを含む植物の葉に含まれる配糖体インジカンが、酵素で加水分解されてインドキシルとなり、これが空气中で酸化縮合して青色のインジゴ(インジゴチン)となる。



アイ(タデアイ)の葉を積み重ねて発酵させ、うすでつき固めた青黒い塊はアイ玉とよばれ、数%のインジゴを含んでいる。昔はこれを再び発酵還元して建浴としたが、のち石灰・亜鉛建てに変わり、さらに現在のアルカリ・ハイドロ建てになって染色は容易になった。

アイの色素成分であるインジゴの合成は19世紀初めから競って研究されたが、ついに1880年バイヤーA. von Baeyerが初めて成功した。その後多くの改良法が生まれ、1897年ドイツで人造アイが工業的に製造されるにおよんで、ついに天然アイは人造品に駆逐された。インジゴは水、酸、アルカリに溶けないが、カ性ソーダとハイドロサルファイトを作用させると黄色に溶け、もめん、人絹、麻、羊毛などに染まり、空气中で酸化すれば元のインジゴにかえて紺色になる。羊毛染色は日光に強いが、もめん染色はあまり強くない。インジゴには多くの誘導染料や類似染料があって、これらを一括してインジゴイド染料という。アントラキノン系のインダンスレン染料と並んで建染染料の代表的なものであるが、色調は青、紫、赤のものが多い。↳インジゴ (加藤 信八郎)

アイアイ Aye-aye Daubentonia madagascariensis マダガスカル島に産するリスに似たキツネザルで、アイアイ科に属する。頭胴長40cmくらい、尾長55～

60cm、暗かっ色～黒色の長毛を密生、頭は丸く、目と耳は大きい。手の第3指(中指)は細長く、足の第1指には平たいつめがあるが、他の指にはかぎづめがある。歯はネズミ、リスなどに似て犬歯を欠き、門歯は1対しかない。夜行性で樹林または竹林にすみ、こん虫、鳥卵、果実、樹液(ことにサトウキビの)などを好む。ネズミに似た門歯で木をかじり、細長い中指で甲虫の幼虫などをとり出して食べる。木の枝のまたに枯葉を集めて大きな球形の巣をつくる。(今泉 吉典)

アイアコス Aiakos ギリシア神話でゼウスと河神アソポス Asopos の娘アイギナ Aigina の子。サラミス王テラモンの父で、その子アイアスの祖父。もう1人の子はアキレウスの父のペレウス。彼はアイギナ(島)の民の王であり、敬神ならびに正義の徳をうたわれた。島に人の絶えたとき、彼の祈りによってゼウスはアリ(蟻)の大群を人間に変せしめた。このことから、アイアコスの民をミュルミドネス Myrmidones (アリ族)と呼ぶ。死後その正義のためにミノス、ラダマンティスとともに冥界(めいかい)三大判官の1人となった。(佐々木 理)

アイアス Aias ラテン形はアヤクス Aiax。ギリシア神話の英雄。これには2人ある。(1)テラモンの子アイアス Aias Telamonios。アイアスはサラミスの軍勢を率いてトロヤ戦争に加わる。巨大な体格の豪傑で、肩から上が人々の頭上に出ていたと語られる。アキレウスのいなくなったときは彼がギリシア軍の大支柱であった。しばしば狡智(こうち)の代表オデュッセウスと並べて出される。この2人で力くらべをしたり、いっしょにアキレウスの陣屋へ使いに立ったりする。性質は朴とつ、剛胆、そして気ぐらいが高い。アキレウスが死んでその遺品の武具を得るための競争をしてオデュッセウスに負け、憤慨して頭が狂い、敵と錯覚してヒツジの群れを切りたおす。正気に戻ってこの行いを恥じ、自殺する。ソフォクレスがこの話を彼の悲劇《アイアス》で扱っている。またサラミス、アッティカ、トロヤ、その他では、アイアスの祖神(ヘーロース)としての祭祀(さいし)が行われた。(2)オイレウス(イレウス)の子アイアス Aias Oileus または Ileus。(1)と区別して《小アイアス》と呼ぶこともある。ロクリスの民(ロクロイ Lokroi)の王。その大軍を率いてトロヤ戦争に参加した。投槍(なげやり)にすぐれ、アキレウスに次ぐギリシア軍中の駿足(しゅんそく)であった。トロヤ陥落の日、アテナの神像に無礼をはたらき、カッサンドラに暴行した。その罰によって帰還の航海の途中で機死する。アテナの怒りはロクロイに対して永続し、これをなだめるために異様な習慣が生じた。ロクロイ最高の名門百家から毎年2人の少女がえらばれてトロヤのアテナの神殿へ送られ、この神殿の召使になる。少女たちは船で海を渡り、上陸するとトロヤ人が待ちかまえていて殺そうとする。護衛して行った人々の力でうまくのがれて神殿へ入ると生命は助かる。だが卑しめられながら一生を独身で過ごすしなければならない。こ

の習慣は紀元前800年ころから、紀元100年ころまでほとんど1,000年近くつづいた。もしもただ伝説上の空想人物の罪にすぎなければ、このような残酷な習慣が現実これほどまで長くつづくわけはないとの理由から、アイアスは史実のもとづく人物であろうとする説がある。

(佐々木 理)

アイイ Pierre d'Ailly 1350～1420 ラテン風には Petrus de Alliaco。フランスのスコラ哲学者。生地はコンピエニユ。枢機卿や教皇使節をつとめた。学者としても多方面にわたり、また神秘主義の一面をももっていた。オッカム主義者として感覚論の立場をとり、因果関係の必然性を否定し、また神の意志を超理性的なものと考えて、善の合理的な基礎を拒否した。善はただ神のかような意志によるだけだからである。なお彼はその著《世界像》Imago mundi (1410)によってコロンブスに影響を与え、《アリストテレス気象論》Tractatus super libros meteororum et de impressionibus aëris (1410)によって新大陸探検者アメリカ・ヴェスプッチに影響を与えている。(今泉 三良)

アイイー IE ↳インダストリアル・エンジニアリング

あいいくそん 愛育村 恩賜財団母子愛育会が、農・山・漁村における母子の福祉増進をはかるため、実験的に設けた地域組織。1934年に創立。昭和初期の農村恐慌の対策として行われた各種の施策が実情にそわなかったためほとんど成功しなかったのに対して、日本特有の農・山・漁村の実情に即する社会事業的施設として創設されたもの。時代の推移による変遷はあったが、近年、母子衛生、環境衛生を主とした地域組織として、また地域社会福祉の組織化運動の一環として注目されている。愛育村では、まず母親自体の立場から、母子を心身両面から世話しようとする婦人が部落ごとに選ばれ、近隣家庭を分担する班員によって構成される《愛育班》組織をつくり、これを中核として地域全体の母子、さらに全住民の保健、文化の向上、社会的福祉の増進をはかる総合的事業、施設を講ずるのである。1980年現在、全国の497市町村に1,098班がある。なお1958年から厚生省の指導で設けられた《母子健康センター》も愛育班活動の拠点として役立っている。これは保健所からの遠隔地に設置され、保健指導と助産の機能をもつ施設で、市町村が運営する。1980年現在、全国に713ヵ所設置されている。(杉本 良夫)

アイイーシー IEC 国際電気標準会議 International Electrotechnical Commission の略称。1906年ロンドンに13ヵ国の代表者が集まって発足した。日本は発足当初より加盟していたが、第二次世界大戦のために一時中絶するにいたり、1953年9月より再加入している。この会議の活動分野としては、第1に各国の電気技術者の間で共通な表現方法を使用することにより相互理解を深めるための仕事、すなわち電気用語の統一、電気の単位・量・シンボルなどの協定を行い、第2には電気機器に対する規格の制定、すなわち機

アキレウス(左)とダイスをするアイアス。前6世紀のギリシアのアンフォラから



るため59年には一律5割増資が行われた(ただし、日本、西ドイツ、カナダは10割増資)。他方、1950年代には従来基金をささえていたアメリカの地盤沈下を反映するドルの弱体化と、ヨーロッパ諸国の通貨の著しい強化がみられ、とくに58年にはアメリカから大量の金が出し、同年末西ヨーロッパ主要国の通貨が交換性を回復した。このことは基金にも多大の影響をおよぼした。もともと弾力性に乏しい基金機構が最近まで円滑に運営されてきたのはドルというバックがあったからである。ところが、世界経済におけるアメリカの優位が58年以降の国際収支の赤字によってくずれ、60年秋のドル危機が発生するにおよんで、金・ドル為替本位制ともいわれるブレトン・ウッズ体制は土台をゆるがされ、国際通貨制度も転換期にさしかかった。ドル不安は現在の国際通貨機構そのものに根ざしているとの認識がひろまり、各方面で対策が提唱された。基金改革にまず名のりをあげたのはトリフィン R.Triffin で、基金を世界中央銀行につくりかえ、1国の中央銀行が自国内の信用量をコントロールするようにこの機関に国際流動性を規制させることを提唱した。この方法は正しいがあまりに思いきった方法であり、研究課題にとどまる。また当時の状況では金価格引上げも実現困難であった。そこで従来のクォータのわく外に資金源をつくり、基金機構の強化を取り決めた。これが「基金の補足資金借入に関する取決め」で、基金加盟の主要工業国(アメリカ、イギリス、西ドイツ、フランス、イタリア、日本、カナダ、オランダ、ベルギーおよびスウェーデン)により運営クラブを形成し、総額60億ドルの資金を拠出して、この資金を、スタンバイ・クレジット方式によって相互に国際収支の危機に見舞われた国に供給し、従来の方式による基金借款のほかにさらに新たな資金にたよれるようにした。こうして基金は国際流動性の不足と偏在に対する力を強めるにいたった。他方、為替安定とならぶ基金の第2の任務である為替制限除去の面でも発展がみられ、61年2月西ヨーロッパ主要国が基金協定14条国から8条国に移行、日本も64年4月に同じく移行し、8条国は先進工業国を中心に23ヶ国となった。しかし上記の新たな資金も短期的性格をもっているだけにすぎず、準備資産の性格をもつ新しい国際流動性が必要となってきた。この要請に応じて考えられたのが SDR(Special Drawing Rights, 特別引出権)である。SDRは金・ドルなどの既存の準備資産を補完する必要があるとき、これに応ずるためIMFによって創造される準備資産であるということができる。しかし、SDRはドルやポンドのように直接民間の取引に使用されるものではなく、外貨の引換権にすぎない。これらの努力はあったが、ドル危機は依然としてIMF体制に不安を与え、ついにその不安は1971年8月、アメリカのドルの金交換停止によって現実のものとなった。IMF体制は、ドルを基軸通貨とする体制で、ドルが基軸通貨たりうる根拠はアメリカが1オンス当り35ドルで金とドルの交換に応ずるという約束である。ドルが金と交換できなくなるとドルの価値

は変動することとなる。このことは、為替の固定相場制をたてまえとするIMF体制を根本からゆるがしたといえる。アメリカの金ドル交換停止の発表後、為替の安定をめざしたIMF設立の精神にたちかえるべく、主要国平価の多角的調整については合意をみたが、9月末のIMF総会ではその方策は具体化されなかった。12月にいたり10ヶ国蔵相会議で、金公定価格の1オンス38ドルへの8.57%引上げ(ドルの7.89%切下げ)を中心に、主要国通貨の対ドル切上げがきまったが、為替変動幅は上下各2.25%に拡大(従来は同1%)された。またドルの金交換再開についても目途は立っておらず、IMF体制が元どおりに再建されることは困難とみられている。SDRの地位と役割を高めよという意見や、金を尊重すべしという声などがあり、IMFはいずれ改革されていくであろう。なお、日本は1952年8月割当額2億5,000万ドルをもって加盟した。1969年末現在、加盟国は115ヶ国、出資割当額総額は213億5,000万ドルである。

(尾崎 英二・荒木 信義)

アイエムシー IMC 国際原料会議 International Materials Conference の略称。1950年12月、朝鮮戦争にともなう軍備拡充の必要、希少原料の確保・割当と価格決定の問題などを協議するためアメリカ、イギリス両国のあいだに会談がもたれたが、その結果、国際原料の割当問題を討議する常置的な機関をおくことが考えられ、前記両国のほかにフランス、オーストラリア、ブラジル、カナダ、インド、イタリアおよび米州機構の各代表が構成委員となって中央原料割当委員会 Central Administrative Allocations Board for Raw Materials が組織された。この委員会のひらく国際的な会議が国際原料会議で、その統轄下に品目別(鉛・亜鉛・イオウ・綿花など)の分科委員会があった。しかし、朝鮮戦争の終結とともにIMCはその役目を果たし、1953年12月に解散した。(阿部 統)

アイエルオー ILO 国際労働機関 International Labour Organization の略称。1919年ヴェルサイユ条約第13編(労働)により創設された労働に関する世界的な公機関。労働条件の労働の規制ないしは国際的な労働者保護の必要については、19世紀以来、人道主義的立場から、あるいは国際労働組合運動の側から、さらに先進資本主義国の側から論じられ、部分的に実現を見ていた。しかしILOが国際労働者保護機関として生まれたのは、第一次世界大戦後の革命気運のさかんな時期であった。創設から国際連盟解消にいたるまでは国際連盟の一専門機関として活動し、連盟解消後も単独で存在した。第二次世界大戦後、国際連合の新設に伴ないILOは国連との協定で国連の社会政策分野の専門機関となり、従来の労働者保護という消極的な役割から、社会一般の生活水準引上げという積極的な面までその活動責任を拡大するにいたった。1964年現在の加盟国は104を数え、とくに1954年にはソヴェトが再加入した。ILOが他の国際的公機関と異なる点は、加盟国の政府代表だけでなく代表的労使団体の代表をその組織のなかに

含め(三者構成制度)、さらに共産系の世界労連(WFTU)、自由諸国系の国際自由労連(ICFTU)や、国際労働組合連合(WCL)の3大労連をはじめとして国際使用者団体(IOE)などに諮問的地位を与え、ILOに参画させていることである。ILOの主要な組織としては年1回の国際労働総会、年3回の国際労働理事会と、事務局としての国際労働局(ジュネーヴ)があり、地域会議、産業別委員会(運輸、炭鉱、繊維、農業など)、各種の事項別専門委員会(社会保障、移民、協同組合など)や、さらに一種の準司法的機能をもつ結社の自由実情調査調停委員会がある。ILOの目的は1944年のフィラデルフィア宣言(のちに憲章付属書となった)に明示され「労働は商品でない」「一部の貧困は全体の繁栄にとって危険である」「社会正義に基づく恒久平和」などの根本原則に立って、具体的には、完全雇用と生活水準の引上げ、労働条件とくに最低賃金の保障、団結権と労使協力、社会保障、労働者保健、児童および母性保護、文化施設の提供、教育と職業の機会均等など10項目の達成をILOの「厳粛な義務」とした。この目的のために行われるILOの諸活動のなかで最も重要なものに政・労・使の自由な討議による国際労働基準の設定がある。これは国際労働規制とか国際労働立法とかいわれるもので、国際労働条約および勧告の形をとり、ともに総会の二重討議ののちに採択される。条約は136を数え、加盟国の批准によってその国を拘束し、勧告は144を数え、各国の立法や団体協約締結の際の指針に役だっている(1971年8月)。近來、社会立法は非常な進展をみせ、たとえば8時間労働制や社会保障はほとんどの国に実施されているが、この面で条約と勧告が果たした役割は大きい。戦後のILO活動の新しい面に低開発国に対する技術援助活動があり、新しい分野に生産性問題がある。国際労働局の調査研究は貴重な資料として各方面で利用され、とくに《国際労働法典》International Labour Code(2巻、1951刊)はILOの過去の諸決定の集大成で、労働関係者の必読書である。なお、その功績に対し、1969年ノーベル平和賞を受けた。

日本はILO創設以来、8大産業国として常任理事国の地位を占めてきたが、1938年に脱退、51年に復帰、54年に10大産業国としてふたたび常任理事国になった。しかしながら日本が批准した条約は1971年8月現在まで29にすぎず、しかも1日8時間、週48時間労働の原則を定めた第1号条約、最低賃金制に関する第26号条約、社会保障に関する第102号条約、強制労働に関する第105号条約のような重要かつ基本的な条約さえも批准されていない。結社の自由と団結権の保護に関する第87号条約は、団結権、団体交渉権についての原則の適用に関する第98号条約とともに、第二次世界大戦後に採択された労働者の団結を守るための重要な条約であるが、日本は第87号条約の批准がおくれ、とくに1958年以来ILOの諸機関で日本の第87号批准問題がとりあげられるにいたり、65年にいたってようやく批准の運びにいたった。

この第87号条約批准問題は、元来公共

企業体等労働関係法(公労法)第4条第3項, 地方公営企業労働関係法(地公労法)第5条第3項が, 公共企業体等の職員でなければ組合員または組合役員たりえない旨を定めており, この規定が同条約に違反している旨の提訴が日本の労働組合からILOの結社の自由委員会に対して行われたことに端を発する。ILO結社の自由委員会は, 公労法, 地公労法の上記規定が労働者の結社の自由を侵害し, 第87号条約に反するものであるとして, これらの条文を廃止し, 同条約を批准すべきことを日本政府に勧告した。ところが政府はILOに対し早期批准を約束しながら, 長期にわたり批准の実現につとめなかったため, 1965年ILOは実情調査調停委員会を日本に派遣するにいたり, 日本政府もついに批准に踏み切ったのである。なお, ILOの結社の自由委員会, 条約・勧告適用委員会, 専門家委員会は, 公労法・地公労法の上記規定が, 第98号条約にも違反する旨を再三にわたり指摘している。ところで第87号批准問題の中核は, 公労法第4条第3項, 地公労法第5条第3項が同条約に違反するからこれを廃止することにあったのであるが, 以上のように批准が遅滞したため, 労働組合側は公共企業体職員・公務員の団結権, 団体交渉権, 争議権に関連する日本の労働法制上の数多くの問題点をILOに提訴した。とくに地方公務員の団体の団体交渉権の問題, 公共企業体等職員の争議権の問題, 公共企業体等労働委員会の構成や裁定の効力の問題など, 現行法上の疑問点がILO結社の自由委員会によって指摘されることとなったため, 問題はしだいに拡大の一途をたどり, 第87号条約の批准や公労法第4条第3項の廃止が実現した現在でも, なお公共企業体等の職員の争議権の問題を中心に, 日本の官公労働者の団結権については多くの問題が残されている。

(高橋 武・花見 忠)

あいお 秋穂 [町] 山口県南部, 吉敷郡の周防灘にのぞむ港町。人口9,121(1970調)。北西に秋穂半島がひらける。秋穂半島の中心は残丘状のカコウ岩山地をもち掌状に分れる。湾頭干拓地の水田, 湾内の魚貝養殖, 先端部のカコウ岩採掘を特色とする。

(浜田 清吉)

あいおい 相生 [市] 兵庫県西南部, 播磨灘沿岸の都市。1942年市制, 54年若狭野, 矢野の2村を編入。人口40,657(1970調)。北に深く湾入した相生湾は, 1万トン級の船も係留できる瀬戸内海屈指の天然の良港で, 風光も美しい。東岸の相生はもと漁村で, いまは造船所のある市の中心部を形成する。湾奥の那波(なば)は山陽道の宿駅で, 北方に山陽本線の相生駅があり, 赤穂線が分岐している。1908年造船所が創設され, 市は造船業とともに発展し, 播磨臨海工業地帯の一部をなしている。

(山崎 禎一)

あいおい 相生 [町] 徳島県南部, 那賀郡の町。1956年延野, 相生, 日野谷の3村が合体, 町制。人口4,586(1970調)。那賀川の中流部にあたり, 川に沿う国道195号線が西から東に町のほぼ中央をはしる。1956年以降日野谷発電所, 川口ダム

および川口発電所が建設された。茶, ミカン, 木材を産する。

(岸本 実)

アイオーシー IOC ⇨オリンピック委員会

アイオージェー IOJ ⇨国際ジャーナリスト機構

アイオリス Aiolis 小アジア西岸に前1000年ころからできたギリシア人の植民地のうち最も北の地方。アイオリス人という場合には, 広義には, アイオリスの住民のほかには, ギリシア語のうちの東方方言群に属するアイオリス語 Aeolic を語った人々, すなわちテッサリアに早く侵入したギリシア人やアイオリス前面のレスボス島の住民をもさす。ドリス人の南下により, アイオリス人のうち東方にのがれたものが, レスボス島やアイオリスに住みつくようになった。

(村川 堅太郎)

アイオワ Iowa アメリカ合衆国中央平原の州。ミシシッピ, ミズーリ両川の間にあり, 面積144,100km², 人口2,870,000(1975推定), 人口密度19.9人/km², 州都はデモイン。1803年フランスからの購入地の一部, 1838年准州, 1846年第29州となる。開拓の最盛期は1840~70年で4万から119万に人口が急増した。トウモロコシ地帯の代表的農業州で平らで肥えた土地と堅実進歩的な経営により数倍の面積をもつテキサス, カリフォルニアと農産額の首位を競っている。

〔自然〕山地が全くなく台地状, 一部は波状地形で北西部の高度約500mから南東部145mまでの緩傾斜である。おもに古生代の水平層から成る構造平野で全般に厚さ10~50mの洪積世水河たい積物におおわれ, 東部, 南部, 西部ではその上部に黄土層がある。気候は冷帯大陸性暑夏型でデモインの年平均気温10.0℃, 7月24.5℃, 1月-5.9℃。年雨量は807mmで夏に多く, 農業に有利であり, 土地は暗かっ色のプレーリー土壤で肥えている。

〔産業〕農業総収入70.1億ドル(1976)は全国第2位で, とくに畜産40.4億ドルは第1位を保っている。農作物の大部分は飼料用で, 家畜は豚1,260万頭(全国第1位), 牛750万頭(第2位, 1976調)で, 鶏卵も全国一である。酪農(乳牛57万頭)と牧羊(87万頭)は北東部におもに行われる。耕地は州面積の62%に達し, トウモロコシはイリノイ州につき, エンバクもミネソタ州につき全国第2である。牧草または大豆が通常3年輪作で栽培される。他に草地492万haがあるが西部とちがい放牧は行わず舎飼である。農場の大部分は60haの中規模で機械力を活用し家族労力のみで耕作・飼育を行っている。工業は付加価値56億ドル, 労働者16.5万(1969), 農産加工と農業用機械が主であるが万年筆, 洗たく機は異色がある。南部に内陸炭田の一部があり年産約90万t, 炭質が劣り地方的意義しかない。

〔社会〕貧富の差が少なく総人口の約4割の中以上の生活水準の農民層を中心とし, 文盲率は最も低く黒人はきわめて少ない。農村文化が発達し土壌保全・輪作・交配種トウモロコシの採用が徹底しており, 全国的農業雑誌が発行されている。その推進力はエームズの州立農工科大学



クライネシャイデックから見たアイガー北壁

と農民団体ファーム・ビューローで後者は協同組合生命保険にも活動, 全国の政治への影響力も大きい。伝統的に共和党の地盤である。州都デモイン(19.4万)は経済的中心を兼ねるがその商圏は東のシカゴ, 西のオマハに蚕食されて全州におよばない。スー・シティ(8.6万), ダヴェンポート(10.0万), シーダー・ラピッズ(10.9万), ウォータールー(7.3万), ダビュック(6.2万)はそれぞれ河港として始まり, のち農産物の集散加工, 機械工業の都市。アイオワ・シティは旧州都で州立大学があり原子力研究の中心地である。

(土井 喜久一)

アイオワシティ Iowa City アメリカ合衆国, アイオワ州東部の都市。人口47,744(1974調)。州立大学(1847年創立)があり, 同大学にはアメリカ原子力委員会所属のエームズ研究所があり, 主として原子力の冶金学・農学的研究を行っている。なお原子力委員会シカゴ操業事務所管轄のエームズ地方事務所がある。1857年までアイオワ州の州都であった。

(金関 義則)

アイガー Eiger スイス南部, 西アルプスのベルナー・オーバーラントにある峰名。ユングフラウ峰, メンヒ峰とともに山塊をなしており, その北東端に位置する。山頂は標高3,970m。山体は中生代ジュラ紀の結晶質石灰岩からなり, 氷食をうけて三角錐状の切截(せっせつ)峰をなす。1858年, バリントンが初登頂したが, 1921年に楢有恒は, それまで数回試みられて成功をみなかった山ろくグリンデルヴァルトから北東稜を経るの初登頂に成功した。また北壁は高さ1,800mの岩壁で, アルプスの困難な三大ルートとして有名(初登は1938年)である。

(式 正英)

あいかた 合方 (1)歌舞伎(かぶき)の効果音楽(下座音楽)の一種。幕の開閉, 人物の出入, 移動, せりふや仕草の伴奏として使用する音楽のうち, うたのはいらない器楽のこと。三味線(しゃみせん)だけのものと, はやしが加わるものとなる。また, 既成の邦楽曲の一部を利用するものと, 新しく下座のために作曲したものがある。(2)義太夫節から取った丸本歌舞伎では, ちょぼの三味線ひきが, 役者のせりふや仕草の間に三味線をひくことを「床の合方」(人形芝居のほうでは「くりやす」)という。(3)三味線音楽用語。曲の中の合の手(間奏)が長く, 特に何かまとまったものを表現しようとするものをいう。その目的は, 歌詞の内容や気分を補足的に楽器で表現することと,

三味線ひきの腕をふるう所を作るためと、歌うたいをやすませるためと、役者や踊り手の動作や衣装変えを助けるためなどで、その二つ以上の目的を同時に兼ねることが多い。たとえば3世杵屋正次郎が、長唄(ながうた)《娘道成寺》の〈恋の手習〉の前にはさんだ〈チンチリレンの合方〉は、三味線ひきの技巧を見せるため(演奏中ここで拍手が起ることが多い)と、この後くどきの〈恋の手習〉の所のしんみりとした味をいっそう引き立たせる対照の妙をねらうと共に、踊り手が衣装をゆっくり着かえるための時間の上手な穴埋めの役目を果たしている。また、長唄《勧進帳》の〈舒(こだま)の合方〉は、山中の場面を暗示する普通の役目以外に、舞台の上で弁慶と義経たちが位置を変えるための時間つなぎの役目もしている。

合方の有名なものは、(1)晒(さらし)の合方 地唄の《さらし》という曲の合の手を利用したもので、長唄の《越後獅子》《晒(さらしめ)》《多摩川》などに使用されている。(2)虫の合方 虫の音のリズムを基本にしたもので、《秋の色種(いろくさ)》《四季の山姥(やまうば)》などに使用。(3)琴の合方 箏(そう)曲の手事を三味線でまねたもので、《秋の色種》《喜三(きみ)の庭》《梅の栄》などに使用。(4)佃(つくだ)の合方 隅田川の佃島あたりを上り下りする吉原通いの舟でひく三味線の手が基本になっている。《吾妻八景》《岸の柳》などに使用。(5)狂いの合方 能の《石橋(しやっきょう)》の獅子(しし)の狂いに吹く、笛の旋律を三味線でまねたもの。《相生(あいおい)獅子》《枕(まくら)獅子》《小鍛冶(こかじ)》など(《小鍛冶》ではキツネの動きを表現)。(6)楽の合方 雅楽や神社の音楽の気分をまねたもの。《秋の色種》《鶴亀(つるかめ)》などに使用。(7)鍛冶拍子の合方 鍛冶のつち音のリズムをまねたもの。《蜘蛛(くも)拍子舞》《小鍛冶》など。(8)寄せの合方 昔の芝居で、客寄せにひいた三味線を基本としたもの。人物の出などに使用。《勧進帳》《安宅松(あたかのまつ)》《高砂丹前》などに使用。(9)雪の合方 地唄の《雪》という曲の合の手を利用して、雪や寒さを表現するもの。合方としては比較的短い方。むしろ《雪の手》というべきもの。常磐津(ときわづ)の《宗清》その他あらゆる邦楽の種目でよく利用される。

(吉川 英史)

あいかわ 合川[町] 秋田県北部、北秋田郡の町。米代(よねしろ)川支流阿仁

川・小阿仁川の下流部を占め、1955年3月上大野、下大野、落合、下小阿仁の4村が合体、町制。人口8,224(1970調)。町の東部には大野台と称する広い明確な3段からなる段丘が発達しており、湖成段丘と考えられる。養豚、養鶏、乳牛など畜産が盛んである。北部の鷹巣(たかのす)町から阿仁合線を通じる。

(市川 正巳)

あいかわ 相川[町] 新潟県佐渡郡、佐渡島大佐渡西海岸の町。人口14,654(1970調)。島の中央、佐和田町から中山トンネルを越すと湾頭と段丘上に発達した相川町にいたる。1601年(慶長6)佐渡鉱山(金、銀、銅)の開発以来、人口の集中をきたし、慶長、寛永の最盛期には人口10万を数えたといわれ、佐渡は幕府直轄地となり、1604年(慶長9)相川に佐渡奉行所が設置された。明治以降は三菱の経営に移り、1952年縮小されたが、68年4月から再開工事が始まり、71年現在月産5,000tを採鉱している。佐渡支庁の所在地で、両津、小木とはバスの便があるが、直接本土との航路を欠き、西端に過ぎるその位置は町の発展上恵まれていない。付近の海食地形の尖閣湾、千畳敷、七浦、春日崎をはじめ外海府海岸は1970年バス道路も通じ、佐渡弥彦国定公園内の景勝地をなしている。相川音頭、佐渡おけさ(浪浪会)、鉱山の産土を原料とした相川焼ともいう無名異(むみょうい)焼、朱紫泥陶器はともに有名で、観光都市として知られる。(磯部 利貞)

あいかわ 愛川[町] 神奈川県北部、愛甲郡の町。丹沢山地の北東縁、中津川(相模川支流)中流部にある。1955年1月高峰村と合体、56年9月さらに中津村を編入。人口18,442(1970調)。町域は中津川中流の山間盆地を中心とし、耕地は少ないが、山林が広く木材の搬出も多く、農山村的生産経済を基盤としている。また中心集落の半原(はんばら)は、絹糸の燃糸(ねんし)業地として知られ、山梨県の郡内地方と八王子など関東山地東縁部の機業地帯へ送っている。これは近世後期にいたって栄えだしたもので、山間やや高い湿度を利用した副業で、当時は絹織物(半原絹)も生産し、江戸送りをしてた。中津川は横須賀市営水道(もと海軍の水道)の水源をなし、上流の中津溪谷は深山の峡谷美で知られ、春夏秋冬には京浜よりのハイカーでにぎわう。

(浅香 幸雄)

あいきじゅつ 合気術 古流柔術のうちの大東流合気柔術のことで、当技(当身技)、抑技(関節技)を主にしたものである。始祖は新羅三郎義光といわれ源家に伝わり、甲斐の武田、会津の武田7代を経て、武田惣角(1940年北海道にて没)に伝わる。現在は植芝盛平により合気道と改称され、盛んである。合気技は、徒手または短刀、刀、やり、棒などを持ち、その技の変化は2,464手と伝えられる。

(小谷 澄之)

アイギナ Aigina ギリシア本土のサロニカ湾内の島、および同島西岸の町。エギナともいう。島の面積約85km²、人口9,553(1971調)。ドリス人が占住して、島と同名のポリスを形成した。平地に乏しく、早くから海上貿易に発展した。ギリ

リア人との間で小額貨幣は前7世紀の半ばころ初めてこの島で鋳造された。またこの市のソストラトスがそのころ貿易により前代未聞の富を得たとヘロドトスが伝えている。貿易に従う市民が多かったことを特色とし、雑貨品が古代ギリシア人の中で〈アイギナの品〉と呼ばれたほどであった。しかしこのポリスは、ギリシア人が地中海沿岸に盛んに植民市建設をおこなった時代に、植民市を設けていない点で注目される。海をへだててアテナイと対し、前6世紀末以来両市は海軍をもって相争うに至ったが、ペルシア戦争に際しては両市協力でサラミスの海戦に活躍した。その後ふたたびアテナイと争い、敗れてデロス同盟に加入させられ、重い貢租を課された。ペロポネソス戦争が起ると、市民はアテナイ人のためにこの島から追われ、その土地はアテナイの移民に分配されたが前405年スパルタの力でふたたび帰国した。ギリシアの代表的な商業都市であったこの市は学者、文人を生んではいないが、前5世紀のはじめこの島に造られたアフアイア神殿が、その破風の彫刻で美術史上有名である。(村川 堅太郎)

アイキャッチャー Eye catcher 印刷物による広告や屋外広告で、読者の目をとらえてその広告にまず読者をひきつけるものをいう。絵だけに限らず、文字や文章によってもできるが、一般にいろいろ注目をうけるアイ・キャッチャーとしては絵がもっとも多く使われている。赤インキびんを壁に投げつけたような表現で人の目をうばうやり方は古くから行われているが、広告が効果をあげる入口としてのアイ・キャッチャーを尊重し広告する目的と内容によくマッチしたものをつくりだそうとする計画的な努力は、アメリカにおいても広告表現が専門化し総合化されてきた最近のことである。そのアメリカでは、人の目をひきやすいアイ・キャッチャーはBeauty(美人)、Baby(赤ちゃん)、Beast(動物)の3Bだといわれている。このことは日本でもあてはまるようだ。(新井 静一郎)

アイキュー IQ 知能指数

あいきょうげん 間狂言 能一番の中に出る狂言方の役。たんにアイ(間)とも、能間(のうあい)ともいう。もっとも普通なのは、前シテが退場して後シテのふん装に着かえる間に出る役で、これに4種ある。〈語り間〉は、シテのふんする役にまつわる物語をワキに聞かせる。〈立シャベリ間〉は、立ったまま独白で物語をする。〈末社間〉は末社の神で、シテの神の徳をたたえた後舞を舞う。〈早打間〉は、事件の急を触れてあるく。以上4種のほかに、一曲の最初に出る口開間(くちあけあい)、ワキにところを教える〈敦エ間〉、シテ、ツレ、ワキなどと交渉をもって筋の進展に加わる〈アシライ間〉がある。(横道 万里雄)

あいきょうじゅく 愛郷塾 1931年4月茨城県常磐村に橋孝三郎が開いた私塾。正式には〈自営的農村勤労学校愛郷塾〉と称した。橋は一高中退後、義弟、妹ら

合気術では相手の気力を逆に利用することで非力の者が強者を倒すことができるという。これは基本技の入身投



と1920年以来同村に兄弟村をつくり、農本主義、勤労主義を基調とする農村運動を始めていたが、29年11月宣伝活動のため愛郷会を設立し、県知事の援助をうけて県内にひろく支部を設けた。愛郷塾は、愛郷会の事業の一つとして設置されたもので、少年部と甲乙にわかれた青年部とからなり、青年部甲は、愛郷の精神に富み農本日本建設の志士たる者を入塾させる規定であった。はじめはたんなる農村運動の一つであった愛郷運動も、農業恐慌による深刻な農民の窮乏を反映して、急進的なファシズム運動と連絡するにいたり、橋の強い影響下にあった青年部は、行動隊の養成所と化した。五・一五事件にさいしては、塾生の大部分は橋に指導されて〈農民決死隊〉を組織し、変電所の襲撃を担当したが、事件後塾は解散した。(藤原 彰)

あいこく 阿育王 ♡アショーク

アイクシュテット Egon Freiherr von Eickstedt 1892~1965 ドイツの人類学者。フランクフルト大学で学位を取得し、ベルリン、フライブルク、ウィーン、ミュンヘンの大学、博物館を経て、1929年ブレスラウ大学の人類学・民族学教室主任教授、46年以降マインツ大学の人類学教授。48年にドイツ人類学会を創立し、初代会長になった。学問的関心は人類学をはじめ古人類学、民族学、民族生物学、心理学の多岐にわたり、調査旅行の範囲も東南アジアを中心としてきわめて広い。その豊かな学識と経験から生まれた主著《人種学と人種史》Rassenkunde und Rassengeschichte der Menschheit (1934)は人種学におけるほとんど唯一の成書としてあまりにも有名である。35年に創刊し自ら編集に当たった《人種学雑誌》は、第二次世界大戦で中絶したが、戦後マインツで《ホモ》Homoと形を改めて再発行し、広い視野を誇る独特の専門誌として発展している。なお《人種学と人種史》の改訂版は《人類の研究》Forschung am Menschenと改題して37年から始まり、62年によりやく完成した。(山口 敏)

あいくち ヒ首 武器よりはむしろ凶器。通常あいくちの語にヒ首の文字を当てるが、本来、あいくちは短刀で、ヒ首(ひしゅ)は短剣である。ともにかくし持つ武器である点で同じだが、ヒ首は中国の刺客に愛用され、あいくちは江戸時代の博徒の間に多く用いられた。ヒ首ははやく日本に伝えられた。九州地方の古墳から出るクルス型銅剣がそれである。あいくちと短刀の違いは、公然これを帯びるか否かにある。短刀は公然はい用するものであるから飾りがあるが、あいくちには飾りがない。(滝川 政次郎)

アイグン 愛琿 Aigun (Ai-hun) 中国黒竜江省の北東部、黒竜江の右岸にある城市。1858年、この地においてロシアと清国の間に愛琿条約が締結された。1908年、清国政府はこの地に愛琿直隸庁を設け、1913年改めて愛琿県治を置いた。現在は県治を北方40kmのものと黒河の地に移している。この新県城は黒竜江をへだててソヴェトのブラゴヴェシチェンスク

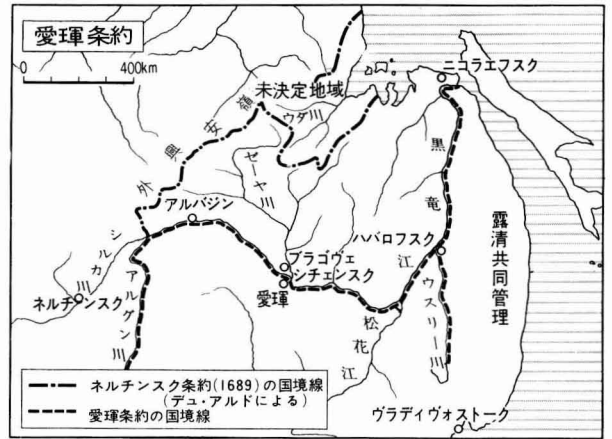
(海蘭泡)と相対し、中ソ両国の貿易の要地である。石炭、木材業が盛んである。1956年愛琿と改名。(森 鹿三)

アイグンじょうやく 愛琿条約 1858年ロシアと清朝の間に愛琿でむすばれた条約。ネルチンスク条約の制約を無視して、ロシアはイギリスに対抗するため、黒竜江の占領をくわだて、ムラヴィヨフを東シベリア総督に任命した。彼は清朝が太平天国の乱に苦しんでいるのに乗じ、清朝の全権奕山をおどして、つぎのような条約をむすばせて目的を達した。(1)アルグン川と黒竜江を両国の国境とする。(2)ウスリー川から海までの間の地を両国の共有領地とする。(3)黒竜江、松花江、ウスリー川の航行権は両国だけがもつ、など。(小原 正治)

アイケフォンレープゴー Eike von Reggow ca.1160/70~ca.1233 ドイツ最古の慣習法書《ザクセンシュピーゲル》の著者。その一生は不明な点が多いが、だいたいエルベ川中流のマグデブルク市南方レピカウ在のゆいしある参審員身分の家系に生まれ、同地方の修道院において広い教養を身につけ、終身参審員としてマグデブルク周辺の州伯法廷に活動した。1220年以前に《ザクセンシュピーゲル》のラテン原本を作成し、1221~24年にそのドイツ訳を完成した。晩年には最古のドイツ口語年代記《ザクセン誌》Sächsische Weltchronikをも著わした。最初のドイツ法学者として国民的尊敬を受けている。→ザクセンシュピーゲル(堀米 庸三)

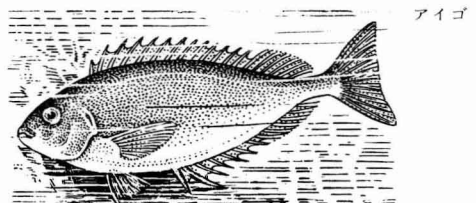
あいご Siganus fuscus アイゴ科の海産硬骨魚。腹びれの外側と内側に1本ずつの鋭いとげがあり、また、しりびれに7本のとげがある。背びれのとげも鋭く、これらのとげに刺されるとはなはだしく痛みを感じる。鱗はひじょうに小さく、一見鱗がないように見える。体色は黄かっ色ないし茶かっ色であるが、体色と斑紋はひじょうに変わりやすい。全長30cmくらいになる。いそ魚で、植物性のえさを好む。本州中部以南からインド洋まで分布している。熱帯には近似の種類が多く、沖縄ではある種類の幼魚が群集するのをとって塩づけにし、くすぐがらすと称し、これを賞味する。アイゴの肉はやや臭味があるが、近似種は南洋ではひじょうに美味とされている。エノウオまたはイバリまたはバリ(福岡県)、ヤアノウオ(長崎)、アイ(和歌山県、三重県)、シャク(浜名湖)など方言がいろいろある。(阿部 宗明)

あいごう 哀号 人の死を悲しんで声をあげて泣くこと。もと中国古代の風習であったが、形式化されて葬儀の重要な儀礼となり、喪服の様式、服喪期間となじぶように、死者との血縁関係の親疎により、泣き方、回数、場所などが異なる。また葬式行列には哭人または哭婢(こくひ)を加えて号泣させた。この儀礼は日本、朝鮮にも伝わり、中国、朝鮮では最近まで行われた。なお朝鮮ではあわれみをこうときや国王に嘆願するときなどにも行われ、集団的に哀号を絶叫するばあいがあった。(旗田 巍)



あいこくこうとう 愛国公党 明治初年に結成された日本で最初の政党。征韓論をめぐって下野した前参議のうち、板垣退助、後藤象二郎、江藤新平、副島種臣らが〈民撰議院設立建白〉を提出するに当って、1874年(明治7)1月民間の世論をよび起すために有志を集めて政党を結び、愛国公党と名づけた。党派は徒党・私党とみなされる風潮の中で、ことさらに公党と称して政党たる意義を強調したと板垣みづから語っているように、日本最初の政党であった。愛国公党本盟(綱領)には、天賦人權の主張と、君民一体による日本帝国の振起昌盛が掲げられた。建白とともに、全国的な民権運動の口火を切った意義は大きい。前参議ら上流分子の説く民権論の限界は、国権拡張を前提とするという主張にもあらわれている。党は発展をみずに自然解消し、主流は板垣ら土佐派の地方的組織である立志社にひきつづかれた(1874年4月)。のち大同団結運動の分裂にさいして板垣派が愛国公党の名称をうけついでることがあるが(1889)、まもなく解散し、立憲自由党に統一されている。(永井 秀夫)

あいこくしゃ 愛国社 1875年(明治8)2月22日板垣退助ら愛国公党関係者によって、立志社を中心に結成された自由民権を主張する民間政社の連合体。これは80年3月17日国会期成同盟と改称されるまで、自由民権運動を推進する民間政治勢力の中核的政治団体となった。はじめ大阪に会合して結成されたが、政治意識の未成熟、資金難、板垣の再入閣などからほとんど実活動にはいらず消滅状態に陥った。しかし78年4月西南の役後の民間政治勢力の沈滞を救うために、板垣とその周囲の人々によって再興が決定され、同年9月大会を大阪に開いて再結成し、10名以上の成員を有する地方政社(原則として都市所在のものを除く)をもって組織することとし、団体加入の原則を明らかにするとともに、本部を東京から大阪に移した。創立大会には土佐を



中心とする士族数十名が会合したにとどまり、再興後も四国、九州など西南地方の団体が大部分であったが、1879年11月大会では東京に分社の設置を決定するなど、しだいに勢力は東進して、最後の大会には北海道を除く全国各地にわたる2府22県87,000人の総代と称する114名が参加し、加盟団体27社に達した。しかしその中心は立志社で経費、事務等についても分担するところが多く、その平面、社内の統制は必ずしも十分ではなかった。その後身たる国会期成同盟は国会願望運動を強力に展開し、翌年に結成された自由党の中に発展解消し、その主力となるのである。(林 茂)

あいこくしん 愛国心 patriotismの訳。一般的には、国民がその所属する国家に愛着をもち、国家と自己の運命を同一視しようとする感情や態度の複合体をさす。その起原は、ふつう社会学者W. G. サムナーのいわゆるエスノセントリズム(外集団にたいし恐怖敵対感をもち、自己の属する内集団を理想化し絶対化する態度。とくに未開社会にみられる自然的感情)に求められることが多い。しかし今日の愛国心を理解するには、それだけではきわめて不十分である。

〔愛国心の展開〕近代的愛国心は、未開社会や古代都市国家などのような小社会への愛情とは質的に異なっている。それはヨーロッパにおいて、封建制の没落、民主主義の発達を条件として成立した。それはとくに新興ブルジョアジーにとって、解放的な意味を持った。18世紀中期から、フランスでは国民nationという語が誇らしくよばれ、進歩派はみずから愛国者と名づけた。オランダの共和主義者も愛国者と称し、その運動は愛国者革命とよばれた。それゆえ封建的国家では、愛国者は要注目人物であり、帝政ロシアでは愛国者とよばれた士官は、そのために追放された。日本の自由民権主義者も、明治10年代までは愛国社、愛国公党など、愛国の旗じるしをかかげた。その〈愛国〉は、明治の学者西村茂樹が『尊王愛国論』で〈現今本邦にて用いる愛国の義は支那より出たるに非ずして、西洋諸国に言う所のパトリオチズムを訳したるものなり……本邦及び支那の古典を閲するに、西人の称するが如き愛国の義なく……〉と論じた意味におけるものであり、封建社会における君主にたいする忠誠とは異質のものであった。このような近代的愛国心は、本来的には〈真の祖国は互いに対抗しはしない。もろもろの祖国は互いに平安に並存し、互いに家族として助けあう〉(ヘルダー)べきはずのものであったが、それが絶対主義国家の権力によって操作されたり、資本主義国家の内部矛盾のなかで利用されるようになると、侵略主義的な暗い影を帯びることになった。日本の自由民権運動にも、かなり広範に排外的愛国心へ転ずる運命がまちかまえていた。近代的愛国心は、絶対主義国家やその後の国家主義の発展のなかで支配階級によって、国民を自発的に体制確立へ服従させるために利用された。封建遺制を強くのこし、民衆の展開する社会運動の高揚に支配層が恐怖を感じ、また資本の進出の必要に迫られた国々では、愛

国心は対外侵略や対内抑圧の道具となった。とくに日本のばあい、絶対主義政府は愛国を忠君に従属させ、家父長制家族主義にもとづいて社会有機体説をみちびき入れ、家族国家観を形成した。それは明治以来義務教育を通じて、組織的に国民を教化した。このような状況のもとで、民主主義の勢力は、つねに非愛国者、国賊などと排斥されながら、国際連帯の面を強く打ちだした。一方、西欧資本主義諸国の侵略にあえいでいたアジアの諸民族には、早くから民族独立運動が進行していたが、とくに第二次世界大戦後、民衆の愛国心は平和と独立をめざして立ち上がった。それらは、植民地化のイデオロギーとしてのコスモポリタニズム(世界主義)に反対しているが、インターナショナルイズム(国際連帯主義)には賛成している。ここに愛国心の新しい類型がみられる。それは、第三世界における民族解放闘争、たとえばアルジェリア、ヴェトナム、アフリカやラテン・アメリカの解放闘争にあらわれている。

〔愛国心の機能〕階級国家が国民の现实生活の利益を顧みないとき、愛国心は自発的な感情であることをやめ、エスノセントリズムの性格を強くする。支配層は、マス・コミュニケーションなどの機構を利用し、国内国外に反国家的な敵を想定し、国民の不満をそこへ向けかえて、国内の緊張を和らげようとする。ナチの宣伝政策がその適例である。この操作された愛国心は、(1)国内の階級的利害を国民的利益の名でおおいかくし、(2)帝国主義的侵略を正常化し、(3)ユダヤ人、〈金融資本家〉〈赤〉など肩代りの目標(スケープゴート)を作って、国民の攻撃的態度をそこへ集中させる。愛国心はまさしく〈無頼漢の最後の逃げ場所〉となる。しかし国民の利益を代表する国家では、愛国心は郷土愛、職場や家族への愛情と矛盾することなく結びつき、平和的性格を持つ。そこには病理的な合理化や攻撃的態度はみられない。しかし侵略者にたいしては、生活と幸福を守るために、国民は愛国者として団結する。愛国心は歴史的にみても、イデオロギー上の先鋭な争点であった。その現実的な機能をとらえるためには、現在とくに民主主義と国際主義の視点から、愛国心の方向を批判的に理解するということが、必要であろう。(日高 六郎)

あいこくふじんかい 愛国婦人会 軍事援護事業を目的とする日本近代の婦人団体。1900年北清事変(義和団事件)に従軍した国家主義的な婦人運動家奥村五百子が、出征軍人や傷病兵の慰問、軍人遺家族の援護などのための婦人団体創立を企てたのにはじまり、翌01年2月陸海軍部の支援や近衛篤磨らの援助で発起人会を開いて発足した。初代会長は公爵夫人岩倉久子で、03年総裁に閑院宮妃智恵子を迎え、皇族、貴族など上流婦人多数を会員に加え、機関誌〈愛国婦人〉の発行、奥村らの全国遊説などによって会勢拡張につとめた。時あたかも日露戦争に際し、会員は一挙に増大して、05年には46万人に達し、日本最大の婦人団体となった。このような発展は在郷軍人会などとともに、帝国主義への転換期にあたって、

軍国化を支える基盤を必要としていた国家の要請にもっともよくこたえ、政府や軍部から有形無形の援助をあたえられたからであった。したがって会の事業も、たんなる軍事援護の域をこえて、しだいに思想教化や社会事業にまでひろがったが、上層階級を地盤とし身分秩序を重んずる会の性格上、その運動はついに大衆的基盤をもつにいたらなかった。満州事変以後のファッション化の進展とともに、軍部は愛国婦人会の貴族的性格にあきたらず、その直接指導下の戦争協力団体として32年国防婦人会をつくったので、以後両団体ははげしい対立をくりかえし、ファッションへの追従と戦争協力を競いあった。この間本会も、婦人報国運動を提唱したり、愛国女子団を結成したりしたが、ついにファッション的婦人大衆団体として転身しきれず、第二次世界大戦突入とともに、42年、大政翼賛会の下部組織としての大日本婦人会へ、他の諸団体とともに統合された。(藤原 彰)

アイゴスポタモイのたたかい アイゴス・ボタモイの戦 アイゴス・ボタモイ Aigos Potamoi(エゴス・ボタミ)は〈ヤギの川〉の意。トラキアの南にあるケルソネソス半島(今のガリポリ半島)のヘレスポントス海峡に流れこむ小川の名。ペロポネソス戦争の末期、前405年180隻のアテナイ海軍は、対岸のランパスコスにいたリュサンドロスの率いるスパルタ海軍と対陣していたが、不意をおそわれて大敗した。この戦いがペロポネソス戦争の勝敗を決定した。(三浦 一郎)

あいことば 合言葉 夜討ちのような暗夜の戦いに敵味方判別のため、あらかじめ味方同士が定めておく暗号語。たとえば〈山〉と問い、相手が〈川〉と答えれば味方とみなし、答えなきときは敵とみなす。日本の初見は『天武紀』上、元年七月甲午の条で、近江別將田辺小隅(たなべのおすみ)が自分の配下と足摩侶(あしまろ)の兵とを区別するため、部下に命じ抜刀で人ごとこれを打たせ、相手が〈金〉と言ったら味方とし、答えない者は切ったとある。赤穂義士の討入りでも合言葉が使われた。(塩田 英五郎)

アイコナル Eikonal 幾何光学において、光学系を通して物空間から像空間への光線の写像関係を表わす関数で、物空間の光線の座標の一部と像空間の光線の座標の一部を独立変数とし、この変数を微分することにより、光線の写像方程式がただちに導かれるものである。これは実質的にはハミルトンが初めて導入した概念であるが、その業績がうずもれていたもので、後にブルンス H. Bruns (1848~1919)が同様な思想を展開してこの理論をたてた。アイコナルの名称もブルンが与えたものである。変形されたアイコナルとしてのザイデルのアイコナルは、その微係数が光学系の収差を直接表現し、レンズ系などへの応用上重要な役割をはたしている。(藤中 恵)

アイコノスコープ Iconoscope テレビジョン撮像管の一種。アメリカでRC Aのツウォリキン Zworykin が発明、19

34年に発表された。ギリシア語eikon(像), skopein(見る)を組み合わせて商品名とした。イギリスではエミトロンemitterともいう。1931年に日本の高柳健次郎の考案した光電子の蓄積原理を応用具体化したものといえる。構造は、図のように厚さ約20 μ m、面積約100cm²のマイカ板の一面に、銀を主体としセシウムにより活性化した(Ag-Cs₂O-Cs)数億個の微粒子(直径約2 μ m)光電面が互いに絶縁されて付着し(モザイク面という)、マイカ板の裏面に塗付した薄い電極(信号板という)との間で各粒子が微小蓄電器を形成しているターゲット部分を主体とし、これと電子ビーム(陰極線)を放出する電子銃、および光電子や二次電子を吸収するコレクター陽極の3者をガラス容器におさめ、高真空(10⁻⁶mmHg以下)とした一種の電子管である。外部にもうけた光学レンズでモザイク面に像を結ばせると、内部光電効果により各微粒子はその部分の光のエネルギーに比例した光電子を放出するので、その部分の蓄電器には正電荷が蓄積される。すなわちモザイク面には光学像に応じた電荷が分布し、電子像を形成する。電子銃から放出される電子ビームが適当な偏向コイルによってモザイク面を走査すると、ビームおよび外部回路を通じてビームのあたった部分の蓄積電荷が放電され、信号板に画面の各部の明暗に応じた電圧(ビデオ信号)が順次に現われる。実用撮像管としては初期のもので感度はよくないが、画面の分解能がよいので、映画フィルムを送像するばあい使用される。改良型としてイメージ・アイコノスコープ、オルシコン、イメージ・オルシコンなどの種類がある。

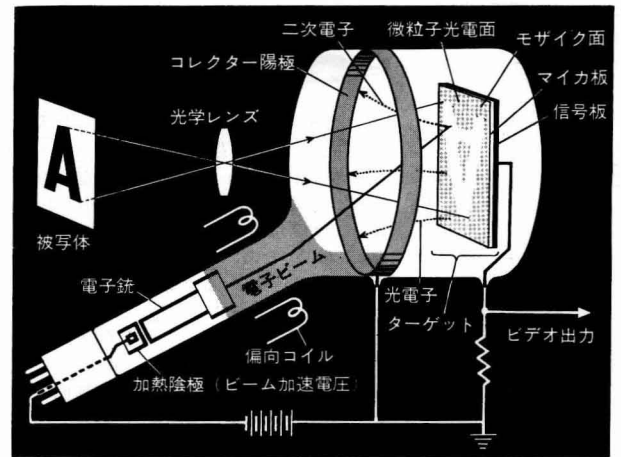
→電子管 →撮像管 (宇都宮 敏男)

あいこのわか 愛護若 浄瑠璃(じょうるり)および説経節の曲名。題は主人公の名前をとったもの。内容は近江日吉(ひえ)の山王権現の本地物(ほんじもの)で、愛護若という少年の不幸な一生の哀切な物語。二条蔵人が初瀬観音に祈って生まれた美しい愛護若は13歳で母を失う。継母が家に来て彼に道ならぬ恋をささやくのをこばみ、そのため継母の告げぐちで父にせっかんされる。実母の霊に教えられのがれて伯父の僧のもとまでゆくが、伯父は狐狸(こり)のしわざだと疑って家に入れぬ。ついに愛護若は絶望のあまり叡山のふもとの滝に投身自殺し、のちに山王権現としてまつられるという筋。何段にもわかれた物語は、貴族の子がせん民に救われたり、モモを盗んで老婆に打たれたりする場面を設定しており、貴種流離物語の一種である。後に浄瑠璃《愛護若母箱(ねぐらのほこ)》《愛護若都の富士》《愛護若名歌勝閑(かちどき)》などの改作を生み、主人公は歌舞伎の脚本にも登場している。(戸板 康二)

あいさ Mergus くちばしが細長く先がかき状に曲がったウミガモ類で、ガンカモ科に属する。脚は短く体の後方にあり潜水に適し、くちばしの縁にはのこぎり状の刻みがある。食物は魚が主で、ために肉はまぐず鴛鳥には適さない。最も普通なのはウミアイサ *M. serrator* で、翼長25cmくらい、くちばしと脚は朱色で、

後頭に黒い冠羽があり、雄の胸、雌の頭とのどは赤かった色である。新旧両大陸の中北部で繁殖し、冬は北米、南欧、北アフリカ、中国南部、日本などに渡る。カワアイサ *M. merganser* は翼長27cmくらい、雄の胸、雌ののどは白い。アイサより少ないが、江湾のみならず湖沼に見ることも多い。ミコアイサ *M. albellus* は翼長20cmくらい、くちばしは短く鉛色で、体は白地に美しい黒紋がある。欧亜大陸の中北部で繁殖し、冬南部に渡るが、日本ではきわめて少ない。(今泉 吉典)

あいさつ 挨拶 人が他人と行きあひまた別れるときに言葉・態度によって尊敬、親愛、友情を示すための伝統的行動様式。民族、時代、季節、時間、条件、階級、身分、宗教、職業、年齢、性別によってさまざまな相違がある。古代ヘブライでは、すでに「Schälām lecha! (平和であれ)」、ギリシアでは「くおめどう」という意味の言葉が使われ、ローマ人は行きあったとき「やあ」、別れるときに「くきげんよう」といった単純な言葉を使った。現代、行きあったときは「くおはよう」「今日は」「今晩は」、別れるときは「きよなら」「くいずれまた」「くきげんよう」というような形式の言葉が使用されているが、離別の期間のいかんによって相違することがある。態度もまた四囲の事情によって必ずしも同一ではない。日本では脱帽低頭が一般的形式であるが、ヨーロッパ人は握手によって親愛感を示すことが多い。アラビア人は「es-selām aleikum」といって左手を胸に上げる。これに対して相手は同じ態度で「wa-aleikum」と答える。トルコ人は両手を胸において低頭する。キスもまた近親者、友人間においてあいさつとして行われる。キスのならわしはヘロドトスによると、東洋に行われていたものが、ペルシアからエジプト、それからイタリアにもたらされたといわれ、ローマ帝政時代にはまだ知られていなかった。あいさつはさまざまな呪術的行為とむすびつく。あいさつと祝福と呪詛(じゅそ)との関係は密接である。呪術行為としてあいさつを禁止するばあいが広く行われている。あいさつすることによって呪術における沈黙のおきてが無効となり、呪術が影響力を失う。たとえばもし、復活祭の日の出前に、途中であった人にあいさつしないで、あるいはあいさつされてもだまって小川から水をはこんで来たら、復活祭の水はつねに神聖で、人間の皮膚をきよめ、病気から保護すると信じられている。呪医あるいは治療に行く者も、途中であいさつしてはならない。こうしたときは途中で「今晩は」というあいさつをしてはならないし、また返事をしてはならないことになっている。宝物を捜しに行く者もまた通りがかりにあいさつをしてはならない。もしそうすると宝物は紛失するのである。産婦が最初に起きるときはあいさつしてはならない。ドイツのヴェッテンブルクではもし産婦があいさつすると、悪魔のために何か害が加えられるか乳児が乳をのまなくなると伝えられている。シュバイエル地方では朝出がかりにあいさつされても「くおはよう」と答えないで、「ありがとう」といなければならない。あいさつ



アイコノスコープ

のあとに魔女がかくれているなんらかの危害を加えると信じられているからである。早朝、老婆にあいさつされたら「くその通り」と答えなければならない。老婦は洗礼に行く途中であいさつしてはならない。もしそのとき悪魔がいたら子どもに対してなんの力もなくなるからである。悪魔にあいさつをされた人は、返礼をしてはならない、かえって悪口をいわなければならない。そうすることによって危険からののがれることができる」という信仰がある。あいさつをしないことによって、こうして禍を防ぎまたはさけるとともに、同じ類推の理由からかえって悪霊に対してあいさつをする形式も生まれる。ドイツのゾーリングゲンの森林地帯では、妊婦は敵意をもった人にあいさつしなければならない。そうすることによってかえって安産すると信じられている。ムギ刈りに行きムギ畑を通るとき偶然に人であって「くおはよう」とあいさつされたら、隠れなければならない。悪霊は人にあいさつされることによって、自ら解放されるので、しばしばあいさつすると信じられているのである。

古いならわしでは星にあいさつしたらしい。これは、女が床に入り、そうしてあいさつすると、けって鶏がタカなどにさらわれないという信仰として残っている。ノルウェーの信仰によると、新年に家畜を山につれて行くと、ある特定の石または老樹にあいさつをする。もしそうしなかったら家畜は不安におそわれ、かこいの中にじっとしていることができないからである。アイスランドでは治療に行くものは、妊の鎖にあいさつし、家の神が家にいるかどうかをたずねる。ヴェストファーレンでは、最初にホトトギ

